









# 平新報

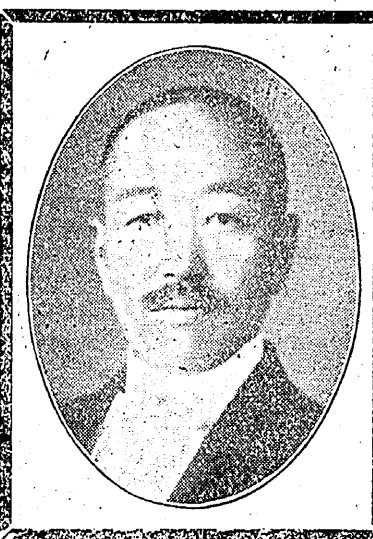
發行所 山形市山形町二丁目二番地  
電話 二二二番  
社 山形市山形町二丁目二番地  
電話 二二二番  
印刷所 山形市山形町二丁目二番地  
電話 二二二番  
定額 一月十元 半年五十元 一年九十元  
郵政 郵便物種三第

十月五日  
號外

## 桐谷先生終に逝く

### 安らげき臨終の事ごと

本紙既報の通り、桐谷先生は再發し自宅平町町麻澤にて、校長一、平生徒一同、松本、平新報社、磐城中學、社々務所安藤國重氏より、治療中であつた桐谷先生は、近親や教へ子、生前親一、平新報社、磐城中學、社々務所安藤國重氏より、しき人々の熱烈なる看護もその効なく、五日午後十時、校長一、平生徒一同、松本、平新報社、磐城中學、社々務所安藤國重氏より、一時拾分終に幽明界を異にし再び歸らぬ人となつた。



嗚呼天命は如何とも致し方なきもの生等萬に一つ快復の望みを抱いて居つた、臨終のその夜、その時！天にも感通してか今迄雨なきその夜小雨しと〜降り出して来た！

就床後毎夜見舞つて居つた筆者は其夜關内正一氏と同行して先生の宅に訪れた、時午後七時過ぎ、玄關に出た先生の息は『どうも駄目です』との事、主事醫の酒井醫師に急報せらるも留守、大森醫師と有馬醫師に往診を願ひするうち大森醫師参り、同醫師は臨終に近きの宣告故に、各關係者に急報した、集りしもの山崎與三郎、馬場豊次郎、唐土齋治、山崎光雄、山崎宣吉、廣田徳行、新田目泰松、大橋、近藤、花澤の諸氏中、途歸つたが酒井清氏は、病氣ながら推して参つた、谷文平氏の葬儀は七日夜三時、かくして愈々臨終近く、長子文雄氏や令室の最後、の別れの吐露の真情は居、時平町麻澤の自宅出棺同、合せる人々を感泣せしめ、た、この親子の真情、氏、葬儀は胡麻澤三組と磐城、の生前の訓育が思ひ遣ら、員在平町麻澤の自宅出棺同、れ家庭の親密圓滿さを思、左の分擔の下に奉仕する事、ばせて余りある、實に氏、の中宿は長源寺東隣馬目、の家庭には温き父であり、社で病氣ながら共濟、の會長等の席にあり、任觀の強き今後とも地方、思想、人心啓蒙のため長、生を切望したるに今日此

### 案内

葬儀は 九日午後自宅出棺  
長源寺にて執行  
八日午後拾時迄の弔電

### 係員其他

- ◆東北帝國大學林鶴一
- ◆福島市鈴木定藏
- ◆第二高等校長玉虫一郎
- ◆千葉縣福井久
- ◆福島市二宮三三
- ◆福島市高商添野信
- ◆二本松町田倉孝雄
- ◆若松市津高女校
- ◆福島市佐貫行
- ◆女子大學櫻楓會

### 弔電

八日午後拾時迄の弔電

- ◆石川町菅沼三郎治
- ◆山田村安島重三郎
- ◆東京市本城藤
- ◆福島市松本唯男
- ◆秋田土崎大出廉治
- ◆福島市小林富吉
- ◆福島市高今朝四郎
- ◆東京麻布石井菊次郎
- ◆相馬中學校校長千秋三郎
- ◆仙臺市須藤
- ◆東京澁谷佐藤義治
- ◆福島市服部保一
- ◆土浦町三井司
- ◆八島田沼崎
- ◆本宮町伊藤謙
- ◆郡山市福島縣共濟委員
- ◆須賀川町市川孫重郎
- ◆福島市鈴木周次郎
- ◆中村町南崎兼石工門
- ◆西河原桐谷四郎
- ◆福島市東安寺
- ◆石川中學校西牧隆雄
- ◆郡山市志賀兼四郎
- ◆福島市近藤節太郎
- ◆北海道八雲中學校平賀仙三郎

| 會場     | 受       | 接      | 葬      |
|--------|---------|--------|--------|
| 伏見 文彦  | 花澤 五五六  | 花澤 五五六 | 花澤 五五六 |
| 中野 康平  | 小野 寛美   | 山名 隆貞  | 清水 廣政  |
| 草野 順平  | 加藤 丈夫   | 諸橋 守次  | 永山 勇吉  |
| 阿部 傳六  | 補頭 憲太郎  | 細野 勝次  |        |
| 花澤 五五六 | 遠藤 七郎兵衛 | 山名 隆貞  | 清水 廣政  |
| 小野 寛美  | 草野 順平   | 加藤 丈夫  | 諸橋 守次  |
| 永山 勇吉  | 阿部 傳六   | 補頭 憲太郎 | 細野 勝次  |
| 伏見 文彦  | 中野 康平   | 花澤 五五六 | 小野 寛美  |
| 山名 隆貞  | 清水 廣政   | 加藤 丈夫  | 諸橋 守次  |
| 永山 勇吉  | 阿部 傳六   | 補頭 憲太郎 | 細野 勝次  |

因みに氏は明治二年六月十七日千葉縣長生郡西村大字水沼生れの當年六十歳、二十年千葉中學校を卒業して上京、二十六年法學院を卒業伊豫の松山中學校を振り出しに、群馬縣安中學校教諭から福島中學校校長に更に大正三年九月五日西村岸太郎氏の後任として磐城中學校長に轉じ大正拾年三月末日迄在校、引いて本縣社會課の新設さる、や同課長主事となり病氣のため十三年退職、平町麻澤に静養中近來血脈等も底下しつ、あり、平禁酒會長、石城兒童研究會長又は共濟會長、平興國會長等の職に在り良く社會公益事業のため直接間接力められ、平十三日會の如きも氏の創設に成つたものである、又日露の役に出征せる事あり、陸軍歩兵中尉、從六位勳五等功五級であり子女七名、帝大地震科に在學の長子の下に、二高、磐中、磐女、平小學校に通學中の者あり、一日も早く氏の全快をまたれて居たものである、(寫眞は磐中校長時代の桐谷氏)

右の如くにて故人は本紙既報の通りあらゆる社會公共團體に關係し居りたれば會葬者弔詞朗讀者多数に上るものと見られて居る。

尚ほ弔詞持參の方は受付係山野邊真立迄申出でられたし「八日夜通夜の席にて記

×光線科

平町南町 電話二一九番

藤名醫院

平町南町 電話五〇七番

高久病院

平町田町 電話五二三番

湯 磐城 泉 松 柏 館

電話五〇七番

本 城

内科 一般診療

片岡醫院

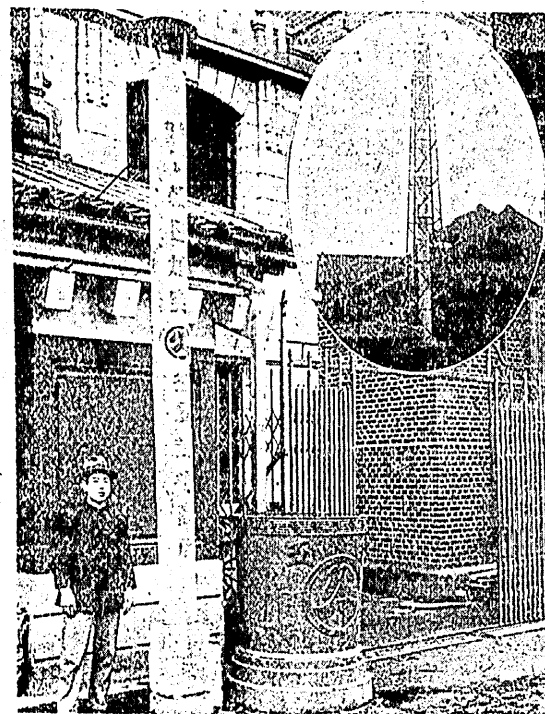
片岡鎌三郎 湯木町驛前

イナラサク。イナケヤ。イナビサ

製トンメセ綿石

突煙日朝

價廉。麗美。火耐。水耐



磐城セメント特約販賣店

和洋銅鐵金物

平町五丁目

釜屋商店

電話九番一三九番 振替貯金口座東京一〇九五六番

良品廉賣に勝る商略なし 確實敏捷は生命なり

婦人世界特選

御大典舞姫模様 (一萬五千圓大懸賞付き)

足利本銘仙大陳列會

平町三丁目 電話六十七番

中野吳服店

日本石油株式會社特約店

平町二丁目

油問屋 清閑内油店

電話一六六番

支店 郡山市驛前 電話三二八番

磐城セメント代理店

西村屋藥舖

平町二丁目 電話三三三番

理化學研究所製 吸入用酸素・酸素吸入器

平町四丁目

關内藥舖

電話四〇番

不思議な滋強靈液

まむしのエキス

本酒を用ひて適切に靈能の分る人々... 養命酒は酒にして非ず藥師用として御婦人に... 擊退する其に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿... 論殊に... 性○不眠症○病後衰弱○婦人病○ステロイド○氣血... 又○他慢性諸病に悩む醫藥に効なき方は論より... 證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事... を御薦めいたします

大瓶 五八〇五入 金貳圓  
中瓶 四〇〇五入 金壹圓五拾錢  
四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も  
好適で御座います  
平町五丁目  
代理店 山野邊藥局  
藥劑師 山野邊東次郎

天高く馬肥ゆるの秋

一般事務用文房具 謄寫版一式

平町二丁目

清水屋書店

電話一三一番

冬の學生服特賣

飛ぶ様に賣れる

なかやの學生服

長ズボン付上下 二四二〇錢  
二號 八九歳向 二四四〇錢  
三號 九十歳向 二四四〇錢  
四號 十一歳向 二四六〇錢  
五號 十三歳向 二四八〇錢  
其他の各種澤山取揃つて居ります  
向中學校も揃つて居ります

平町二丁目

なかや洋服店

電話二〇三番